榆木小学校　学校通信
No.４２
なりたい自分になる！
PLUS ULTLA
令和７年２月２１日
文責　余宮

インフルエンザなどの流行もなく本当に良かったと思います。保護者の方々のご配慮に感謝いたします。

利他

５年生の教室をのぞいてみると、初めてのミシンに挑戦中。保護者の方々のご協力もいただき（本当にありがとうございます！）、「奮闘」という言葉が似あうような熱気あふれる教室になっています。直線縫いや直角に曲がって縫うやり方など、ミシンといってもいろんな技能があるんだと、改めてびっくり。

そんな中、すでに出来上がったみこさん（仮名）が、困っているけんさん（仮名）に声をかけています。

「曲がるとき、針を入れたままストッパーを上げて…そうすると、針が抜けないから」

けんさんは、みこさんの言うままにやってみると・・・完璧にうまくいきました。満面の笑みがこぼれます。さらに、みこさんは助けを求めるお友達のもとへ。と、今、苦労して出来上がったけんさんも、助言に回ります。

自然な助け合い、教え合い、学び合いに遭遇し、心からいいなあと思います。

利他という言葉が心に浮かびました。

人は、自分のために生きる。だから、根本的に人という生き物は「利己的」だ、という規定をして経済学という学問は生まれた、と聞きました。言葉通り、己（おのれ）の利することに向かうのが人間である。「利己」が経済理論の前提だと。だから、「利己」をベースにおいて経済学の理論を検討していくんだけど、どうしてもいろんな場面で齟齬（そご）が生まれてしまう。どうしてだろう。人間は徹底的に「利己的」だったんじゃないのか。

そんな時、人間性について実証しようと「独裁者ゲーム」という研究が実践されました。ちょっと解説を。

お互いに知らないもの同士の２人をペアにして、一方の人にだけ１０００円を与え、それをもう一方の人とどう分け合ってもよい、と伝えることで、実験開始。

この場合、２人は全く知らないもの同士（赤の他人）なので、従来の経済学の規定からすると、１０００円をもらった人の多くは、独り占めをすると考えられます。だって、利己的ですから。相手も知らないことだし。ねえ。

しかし、結果は違いました。ほとんどのペアは独り占めをすることなく、もう一人にお金を分け与えていた（平均すると３００円程度）、ということだそうです。

これは、人間が決して「利己的」なだけではなく、「利他的」な心や振る舞いをしようとする資質が備わっている、ということを意味しているのでしょう。確かに、友達の幸福を自分のことのようにうれしく思うとか、見返りを求めずボランティアを行うことでとても気持ちが良くなる、などという経験はだれしもにあるのではないでしょうか。

このことを「週刊こどもニュース」などで有名な池上彰氏は、次のように述べています。

「人間はそういうふうにできているから、というほかありません」

なるほど納得。

とはいえ、その心は、磨かれて花開くものでもある、と思います。みかさんやけんさんのような素敵な「利他」の心が広がる榆木小であってほしいと、心から願った一日でした。